

平成 25 年 8 月

関西広域連合議会総務常任委員会会議録

平成 25 年 8 月 関西広域連合議会総務常任委員会会議録 目次

平成 25 年 8 月 9 日

1	議 事 日 程	1
2	出 席 議 員	1
3	欠 席 議 員	1
4	事務局出席職員職氏名	1
5	説明のため出席した者の職氏名	1
6	会 議 概 要	2

○議 事 日 程

開会日時 平成 25 年 8 月 9 日

開催場所 関西広域連合本部事務局 11 階 大会議室

開会時間 午後 1 時 30 分開会

閉会時間 午後 2 時 35 分閉会

議 第

1 報告事項

第 1 関西広域連合委員会等について

2 調査事件

第 1 次期広域計画骨子案について

第 2 平成 24 年度決算見込みについて

第 3 平成 25 年度補正予算案（要求ベース）について

○出 席 議 員 (27 名)

1 番 今 江 政 彦	16 番 多 田 純 一
2 番 家 森 茂 樹	17 番 山 下 直 也
3 番 吉 田 清 一	18 番 中 村 裕 一
4 番 村 井 弘	19 番 福 間 裕 隆
5 番 上 村 崇	21 番 山 口 享
6 番 渡 辺 邦 子	22 番 重 清 佳 之
7 番 上 島 一 彦	23 番 北 島 勝 也
8 番 三 宅 史 明	24 番 竹 内 資 浩
9 番 富 田 健 治	25 番 井 上 与 一 郎
11 番 吉 田 利 幸	26 番 角 谷 庄 一
12 番 岸 口 実	27 番 高 山 仁
13 番 山 本 敏 信	28 番 西 村 昭 三
14 番 日 村 豊 彦	29 番 前 島 浩 一
15 番 山 口 信 行	

○欠 席 議 員 (2 名)

10 番 横 倉 廉 幸
20 番 藤 井 省 三

○事務局出席職員職氏名

議会事務局長 佐 藤 博 之
議会事務局調査課長 樋 本 伸 夫

○説明のため出席した者の職氏名

本部事務局長 中 塚 則 男
本部事務局次長 古 川 美 信

本部事務局次長兼総務課長	村 上 元 伸
本部事務局企画課長	亀 澤 博 文
本部事務局計画課長	立 石 和 史
本部事務局国出先機関担当課長	中 谷 文 彦
広域防災局防災計画参事	藤 森 龍
広域観光・文化振興局長	松 村 明 子
広域産業振興局長	檜 岡 宗 吉
広域産業振興局農林水産部次長	鎌 塚 拓 夫
広域医療局長	小 谷 敏 弘
広域環境保全局長	森 野 才 治
広域職員研修局長	市 川 靖 之
広域インフラ検討会企画部会長	野 田 寛 芳
関西イノベーション国際戦略総合特区推進室長	北 野 義 幸
エネルギー検討会PT長	白 谷 章
本部事務局課長（滋賀県担当）	富 永 重 紀
本部事務局課長（京都府担当）	古 澤 明
本部事務局課長（大阪府担当）	小 高 將 根
本部事務局課長（兵庫県担当）	田 中 孝 幸
本部事務局課長（徳島県担当）	三 好 誠 治
本部事務局課長（京都市担当）	阿 部 吉 宏
本部事務局課長（大阪市担当）	間 嶋 淳
本部事務局課長（神戸市担当）	藤 原 啓

午後1時30分開会

○委員長（吉田清一） それでは、これより関西広域連合議会総務常任委員会を開催いたします。

本日の理事者側の出席者については、お手元に名簿を配付いたしておきましたので、ご覧いただきたいと思います。

まず、報告事項ですが、去る7月25日に開催されました第35回広域連合委員会の開催概要及び関西経済連合会との意見交換会の開催概要について、本部事務局から報告をお願いいたします。

○委員長（吉田清一） 村上次長。

○本部事務局次長兼総務課長（村上元伸） では、私のほうから、資料1-1及び1-2に基づきましてご報告させていただきます。

まず、資料1-1をお願いいたします。

第35回の連合委員会の概要でございます。

まず、1点目としましては、前回の総務常任委員会でもご報告いたしましたワールドマスターズゲームズの招致について現在検討を進めているところですが、これにつきまして、トリノの視察を終えた上で、8月の連合委員会で協議するということが決まりました。内容につきましては後ほどご説明、ご報告いたします。

2点目、国家戦略特区の動向と、関西広域連合としての対応でございます。これにつきましては、関西広域連合として共同提案を検討すること、また、共同提案とは別に個別のアイデア提案等についても行っていくということが確認されたところでございます。

道州制につきましては、以前にもご報告いたしましたけども、現在のあり方研究会の状況について報告いたしました。

文化振興指針でございます。これにつきまして、現在、京都府の広域観光・文化振興局のほうで検討しておりますけども、今年度は、その振興指針を策定すると。来年度、分野別計画を策定する予定にしております、その際には議会のほうの議決事項として審議いただくこととなります。

農林水産業ビジョンでございますけども、これは本日午前中の産業環境常任委員会でもご報告いたしました。今後11月の当連合議会でご審議いただくこととしております。

2の報告事項でございます。そのほか、関西電力の大飯3・4号機の評価について、その状況を説明いただいたこと、また、後ほど説明しますけども、新たな国庫の補助事業に採択されたこと等について報告いたしました。

また、裏面でございますが、3番目としまして、沖縄の米軍基地負担軽減に対する申し入れということで、前回の6月の連合委員会で、松井委員、橋下委員のほうから、オスプレイの受け入れ等について提案をしてはどうかという提案がございました。それにつきましては、その際結論に至らずに、広域連合としては、申し入れを行っていなかったところですが、その際に、オスプレイだけではなく、むしろ沖縄の基地負担の軽減という観点から、内容を改めて検討すべきではないかという意見がございまして、その間、文言等調整し、この7月の連合委員会で、最終的には沖縄の米軍基地負担の軽減に対する申し入れという内容で、基本的には、全国知事会でも同趣旨の申し入れをかつてしておりますが、それと同様の内容の申し入れを行ったところでございます。

広域連合委員会につきましては以上ですが、その次に、ワールドマスターズゲームズの招致についてという資料をおつけしているかと思えます。これにつきまして説明させていただきます。

この7月の連合委員会で、ワールドマスターズゲームズにつきましては、まず、関西から、とりあえずの開催計画の提案書の原案といたしますか、草稿、ドラフトというようなものを7月末までに出すけども、まずは、まだ関西広域連合として正式に招致を決定したものではありませんということ、それでトリノの大会を視察した上で改めて回答しますというのを前提に草稿を提出しました。それにつきましては、後ろにカラー刷りの資料を一部抜粋しておつけしているかと思えますけども、この場合に、例えば陸上競技については、何々県の何々会場で行うとか、水泳については、何々府のどこどこで行うというような具体的な計画を書いたものではなく、関西には、例えば陸上競技場ですと、これとこれとこれとこんなたくさんあります。水泳、プールにつきましては、こんな立派なプールがたくさんありますというような、いわゆる関西にありますスポーツ資源のデータベースをIMGA国際ワールドマスターズ協会さんに提供するというような形の内容にしたところでございます。それを出すということを委員会で決定いたしました。

当面のスケジュール、1ページ目の(3)でございますけども、7月31日からトリノの大会を視察に行つてまいりました。後ほどご報告いたします。8月9日、本日を経まして、

この8月29日の連合委員会で最終的な招致についての協議を行いたいと。できれば、その日のうちにいずれかの結論を出したいと考えております。IMGA国際ワールドマスターズ協会のほうには、9月中旬に結論を出すと申しておりますので、8月29日を経て再度調整しながら、9月中には結論を出したいと考えております。そうなつてまいりますと、これは今回、トリノの視察で、向こうの事務局と話した結果ですが、もし私ども関西のほうで招致するとなれば、11月の第2、3週ぐらいに、IMGAの査察団といいますか、向こうの役員が開催地を見に来るといようなことで、たしか年内と言ったと思いますけども、向こうとしては、開催するんであれば、年内に開催決定したいと、正式に決定したいということでした。

1ページをおめくりいただきまして、トリノ大会の概要でございますけども、記載のような日程で行ってまいりました。後ほど説明しますが、これとあわせまして、ページ下段ですけども、何もそのIMGAが実施している国際大会だけではなく、むしろ関西みずからもそういうことを盛り上げていくといいますか、マスターズスポーツの振興等について取り組むべきものは取り組むべきではないかという意見が連合委員会の委員からもございまして、これにつきましては、既存のさまざまなスポーツイベント等、各府県市でも実施しておりますので、そういったこととも連携するような形で、関西版のマスターズゲームというのを立ち上げるということも検討してはどうかということを考えております。できれば26年度の創設を目指して、今後、予算等の中でご相談、ご審議いただきたいと思います。

次、カラー刷りの資料をめぐっていただき、一番最後の紙でございますが、ワールドマスターズゲームズトリノ大会視察概要ということで1枚つけております。視察団につきましては、鳥取県の平井知事、京都市の門川市長を両団長といたしまして、本部事務局職員、また、サントリーホールディングズのほうから社員の方にお越しいただいております。また、各府県市の担当課長さん、局長さん方にもそれぞれご参加いただきました。そのような総勢15名プラス有識者グループも含めると、全部で20名の視察団となりました。視察先は、記載のとおりでございますが、詳細は、1つは、トリノ大会の組織委員会による説明会を聞き、また、8月2日には、カイ・ホルムIMGA会長と協議をしました。また、トリノ市長と面談もしたところでございます。その他会場等視察しました。

大会の概要ですけど、一番下に簡単に書かせていただいておりますが、大体向こうの事務局の説明では、登録者数といいますか、選手及び付添人、コーチ等だと思いますけども、合わせて1万9,000人程度だというご報告でありました。また、家族等も含めると、さらに膨らむのではないかと、合計107か国から参加している。日本からも多くの方がいらしておりますし、実際いろいろ話もすることができました。大体150名程度は来ているのではないかというのが、現地日本人会の情報でございます。その他、現地の様子ですけども、会場周辺でありますとか、重立った駅前なんかにはのぼり旗等々が立っております、それなりにカラーが染まっておりますが、全体がそう盛り上がっている状況ではございませんでした。開会式なんかはかなり国際色豊か、107か国からのそれぞれ自分とこの国旗を振りながらのイベントになりますので、それなりに盛り上がった状況であったと思います。

裏面でございますけども、IMGAの事務局、その会長及び事務局長と相談した結果でございます。5番に、今後の手順を書いております。これはもちろん、仮に関西が招致を、

この8月29日の委員会で決定するとした場合の前提がございますけども、10月1日までに、向こうの会長の説明では、私どもが提案した開催提案、これはまだまだ草稿、原案ではあるけれども、非常に積極的な内容で、よくまとまっているけども、現時点で、その財政面の具体的な記述がないので、直ちにオーケーとは言えない。当然、こちらが決定しているわけではございませんので、具体的な財政計画まではできないわけですけども、そこについて早く出してほしいという意見がございました。そもそもIMGAとしては、これまでオセアニア、オーストラリア、アメリカ大陸、ヨーロッパでは展開しているんですが、アジア地域でまだ一度も開催していないということで、IMGAとしては、ぜひアジア地域に今後展開していきたいという中で、現在、シンガポールでございましてか韓国の地方政府、あるいは中国やドバイといったようなところも手を上げることを検討しているという状況だと。特に高額のお金を積んでるようなところもあるやに聞いておりますけども、やはり、マスターズ人口の話でありますとか、信用性というような意味で、やるのであれば日本を最優先に考えたいというのがIMGAサイドの意向のようでございます。

具体的な手順でございますが、その欠けていると言われている収支計画を10月1日までに出せば、11月に現地査察をします。具体的に、冒頭言いました、まだ決めておりませんが、どここの府県でどの競技をするというような具体的な中身については、実際その会場等も見ながら、向こうの事務局と相談しながら決めればいいじゃないかというような状況でございます。IMGAワールドマスターズゲームズの招致については以上でございます。

若干お時間ちょうだいしまして、続きまして、連合委員会当日7月25日に開催しました関西経済連合会との意見交換の概要について、資料1-2に基づきましてご報告いたします。

議事概要でございますが、関西広域連合の主な意見としまして、まず、森会長のほうからは、関西イノベーション国際戦略総合特区について、今後とも官民一体となった推進をお願いしたいというようなご意見がございました。特に国家戦略特区については、広域連合と経済界が連携し、取り組んでいきたいというようなお話でございます。連合長のほうからは、国家戦略特区については奈良県も含めて、けいはんな等ございますので、奈良県へも呼びかけながら、関西全体で取り組みを推進していきたいというような発言がございました。また、首都機能バックアップにつきましては、関西経済連合会としても、非常に興味を持って進めておられるところでございますが、今後、ぜひ東京のほうで、そういうシンポジウム等を開催することを検討していこうということになっております。

松本副会長、住友電気工業の社長でございます松本副会長さんでございますけども、特に広域交通・物流基盤、これについて、ぜひ関西広域連合としても積極的に取り組んでほしいというお話がございました。

裏面になりますけども、広域のインフラ計画につきましては、仁坂副連合長、和歌山県のほうが幹事をしていただいておりますけども、仁坂副連合長のほうから、次期広域計画の位置づけについて、例えば関西広域連合として具体的に権限をもって実施するものがあるのかなのかといったことも含めて今後明らかにしながら検討していきたいという発言がございました。

NTT西日本の相談役の森下副会長でございますけども、特に産業人材だということだ

と思いますけども、教育の場づくりについて、広域連合も参加してほしいというお話がございます。これにつきまして、松井委員のほうからは、関西広域産業連絡会議というものを発足させまして構造、産業人材に向けて取り組んでいくということをご報告いただいております。

また、アートコーポレーション社長の寺田副会長からは、関西ブランドということのコンセプトの発信等々に力を入れていただきたいというお話がございまして、関経連としても、広域観光研究会というものを設置されるということがございますので、そこと連携しながら進めたいというお話がございました。

その他でございますが、阪急電鉄社長の角副会長のほうからは、日本版N I Hの関西への誘致ということを広く推進してほしいと。また、電力供給について安定供給が保障されなければならないということ強く申されていた状況でございます。

近鉄の会長であります山口副会長につきましては、やはり先ほどもありました物流組織の脆弱性が指摘されております。今後、関西の交通網がすぐれていくようにするための取り組みを求められたところでございます。

それとあとペーパーにはしておりませんが、冒頭、井戸連合長の挨拶の中で、先ほど報告しましたワールドマスターズゲームズについて、今後ボランティアであるとか、経済、財政面の話、組織の問題等々さまざまな課題が想定されるので、経済界も一緒になって解決するようにお願いしたいという話をしまして、最後の森会長の締め挨拶の中で、経済界としても一緒にやっていくということをお話いただいたところでございます。

私のほうからの報告、以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（吉田清一） それでは、ただいまの説明に対しまして、意見、質問等がございましたら、ご発言願いたいと思います。

○委員長（吉田清一） 富田委員。

○富田健治委員 ワールドマスターズゲームズですけども、裏打ちの問題ですけども、大体、どれぐらいかかるものなのかなと、わかるならお教えください。

○委員長（吉田清一） 村上次長。

○本部事務局次長兼総務課長（村上元伸） まだまだ具体的な計画の中身というのは、これから詰めてまいりますので、積み上げによる積算というのはできていないんですけども、過去2009年大会を目指して滋賀県さんのほうが誘致を検討されました。そういったときの材料等も勘案しますと、今のところ大体23億プラスアルファぐらいがかかるかなと、あるいはもう少し、今の為替の問題等ございますので、日本円にすれば、もう少しふえるかもしれませんが、ぐらいを想定しております。ただ、これにつきましては先ほど言いました、今後中身を詰めていく中で、大きく変動する可能性はありますので、よろしく願いいたします。

○委員長（吉田清一） ほかがございせんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（吉田清一） それでは、ないようでございますので、この件に関しては、これで終わりたいと思います。

次に、調査事件についてでございます。

本日は、次期広域計画骨子案、平成24年度決算見込み及び平成25年度補正予算案を調査

事件として順次説明を聴取していきたいと思います。

質疑を行うこととし、全体として15時30分までを考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、次期広域計画骨子案について説明を聴取した後、質疑を行います。

それでは、本部事務局から説明願います。

○委員長（吉田清一） 古川次長。

○本部事務局次長（古川美信） 資料2をご覧いただきたいと思います。

この資料2でございますが、5月11日の総務常任委員会で、まず報告をさせていただきました論点骨子案を整理して、それを骨組みでまとめて、骨子案として提示をさせていただいたものでございます。

それでは、設立3年間の総括と今後の取組方針、現行広域計画との変更点、こういったものを中心に説明をさせていただきたいと思います。

まず、この策定の趣旨のところ、設立3か年の総括及び今後の取組方針のところでございますが、まず、1の広域事務でございます。

ここにつきまして、広域防災を初めとして7つの広域事務がございますが、これにつきまして、各分野別の事業計画、既に作成されておまして、現在この計画に基づいて取組を進めているところでございます。本計画では、これまでのこの取組を検証いたしまして、文化振興とか農林水産振興、こういった新たな取組についても盛り込んでいきまして、広域事務分野ごとに取組を着実に進めていきたいと思っております。

2の国出先機関対策でございます。

国出先機関の移管につきましては、現在、政権交代等によって少し方向が不透明になっておりますけれども、引き続き先導的なモデル事業としての国出先機関の移管などを進める、これはもう変わらないと思っておりますので、地方分権を政府に強く主張していきたいと思っております。本計画におきましては、また、後で説明いたします7ページに、国の事務権限の移譲という大きな項目を設けて記載いたしまして、政府与党が主張されております道州制においても国出先機関の地方移管、これはもう当然に前提となるものであると考えておまして、関西広域連合が先行的に受け皿となるように求めていきますとともに、あわせて、例えば近畿圏広域地方計画、次の計画策定ですけれども、こういった策定権限の広域連合への移譲など新たに盛り込んで、取組の強化をしていきたいと思っております。

3の広域課題への積極的な対応です。

関西全体の政策の連絡調整、企画調整といった事務は、例えば北陸新幹線のルート提案に係ります関西広域連合としての方針決定、あるいは大飯原発の再稼働に対します意見表明の調整などに取り組んだところでございます。関西全体の利害調整を図りますために、関西広域連合は今後とも関西全体の政策の企画調整や連絡調整事務につきまして積極的に対応していきたいと考えております。本計画におきましては、一定の組織的な整備が整うほど成熟したものとか、あるいは官民協働による検討を進められて、本計画期間内においても積極的な取組を図る必要があるといったものについて、企画調整事務として明示をし、本計画を通しまして、広く住民の周知を図り、その説明責任を果たすとともに積極的に取組を進めていきたいと考えております。

それから続きまして、広域連合が目指すべき将来像ですが、文章にしておりました基本

方向を、アジアのハブ機能を担う新首都関西、それから個性や強みを生かして地域全体に発展する関西、この項目に変更したところがございます。また、将来像の6つのところですけども、文化を強化する視点から、将来像の3、国内外にわたる観光・交流の関西を、国内外にわたる観光・文化の交流拠点関西というふうに修正をしております。

それから広域事務でございます。これは次の3年間の既存7分野の広域事務について、広域事務ごとに重点的に取り組む方針というのを記載をしていきたいと思っております。この中で、第5の事務事業、実施事務の対応方針及び概要の広域防災でございます。広域防災は、南海トラフの巨大地震への広域対応を中心に記載をしております。広域対応の推進におきましては、南海トラフ巨大地震に対する対策といたしまして、救援・救護、物資の供給、広域避難等具体的な対策について、シナリオ化を図るという方向で整理をいたしております。また、それ以外にも原子力災害に対しての具体的な体制の構築であるとか、あるいは広域応援・受援体制の目玉としての、中央防災会議でも配送拠点機能強化をうたわれておりますけども、広域ネットワークの推進を進める、あるいは、新型インフルエンザ等の感染予防対策、自然災害対応への訓練の実施など進めていきたいと思っております。

それから次に3ページを見ていただきまして、広域観光・文化振興でございます。

観光は、国際観光圏「KANSAI」のブランドを世界に発信していきますために「KANSAI国際観光YEAR」を継続的に展開をいたしまして、文化振興との連携を図りながら、中国、韓国等、東アジア、東南アジアなどに対しましても海外観光プロモーション、これを展開をしていきたいと考えております。例えば個人、団体、性別、宗教に対応するというのも大事ですし、グルメ、スポーツなど志向に対応するなど新しい観光需要への対応を図ってまいりたいと考えております。

また、戦略マーケティングとしまして、SNS等を活用した口コミ戦略に力を入れて、個人誘客及び国別の誘客を進めていきたいというふうに考えます。また、インフラ整備推進体制等を進めていきたいと思っております。

文化のところでございますが、ここはまだこういう書き方にしております。現行の広域計画でも明確には触れておりませんが、現在、文化振興指針の策定に取り組んでおります。先ほど連合委員会の説明でもありまして、現在策定中でございます。有識者会議が6月に始まりまして、文化・観光一体となったものとして進めておりまして、今後内容確定した後、次の計画の中に追記をしていきたいというふうに考えております。

それから4ページを見ていただきたいと思っております。

4ページは、広域産業でございます。産業振興は、平成24年3月に、関西広域産業ビジョンを策定しております。次期広域計画では、この産業ビジョンの中でも4つの戦略を示しておりますが、これに基づいて記述をしていきたいと考えております。この4つがここに書いてありますとおり、世界の成長産業をリードするイノベーション創出環境・機能の強化等4つでございます。これを次期広域計画の中に位置づけていきたいと思っております。農林水産業でございます。農林水産業の振興につきましては、連合議会からもいろいろご意見いただきまして、地産地消の推進に取り組んでおりますが、これも8月中を目指しましてビジョンを策定中でございます。今後このビジョンができ上がり次第、この広域計画の中に追記をしていきたいと思っております。これも現状では、こういうマル・ペケになっております。

それから、4の広域医療でございます。広域医療につきましては、ドクターヘリの広域的な運用を大きな柱といたしまして、広域医療に関するものを3カ年の広域救急医療連携計画をもとに着実に運営を行ってまいります。ドクターヘリにつきましては着実に実施をしていきますとともに、広域防災計画とも連携して災害医療に取り組んでいきます。また、小児医療等の連携、あるいは薬物乱用防止等、新しい項目についても、計画の中に入れ込んでいきたいと思っております。

次に、5ページを見ていただきたいと思います。5の広域環境保全でございます。

広域環境保全は、現行の関西広域環境保全計画に盛り込まれております低炭素社会づくりの推進と、自然共生型社会づくりの推進につきまして今後も着実に進めていきたいと考えています。例えば低炭素社会づくりの推進では、エコポイント、電気自動車の普及促進とともにエネルギー検討会の検討も踏まえまして、再生可能エネルギーの導入促進に取り組んでいきます。また、広域的な鳥獣保護管理、カワウ以外の鳥獣にも取り組んでいきたいと考えております。新たに書いておりますが、環境人材育成を新規の項目として記載をいたしております。段階に応じた環境学習の推進を考えております。

それから6の資格試験・免許でございます。

これにつきましては調理師、製菓衛生士及び准看護師の資格試験・免許事務は、本年4月から連合においても開始をいたしております。調理師、製菓衛生士は、この7月にもう既に試験を実施したところです。今後とも住民サービスの低下につながることをないよう、適切に事務を実施をしてまいります。

それから7番の広域職員研修でございます。

広域職員研修につきましては、政策形成能力研修、団体連携型研修におきましては、資質の向上を目指しまして、各研修の中身の充実を図ってまいります。連合の規模のメニューといたしまして、インターネット、ウェブ研修の実施等、研修の効率化を図っていきたくと考えております。

続きまして、6ページをご覧くださいと思います。8の企画調整事務ということですけども、関西全体の政策の企画調整や連絡調整という事務につきましては、関西広域連合が関西全体として取り組むべき事務を主体的に担う特別地方公共団体としてもう発足をしております。現行の広域計画では、表題だけではなかなかその政策の企画調整をしていくことがわかりにくかったので、表題を、「政策の企画調整及び地域の振興計画の策定・実施」と変更したところでございます。また、連合設立後に組織体制の整備、あるいは官民連携により具体的に取組が進められています。それから熟度が増した課題、こういったものであって、次年度以降、企画調整事務として積極的に取り組んでいく事務につきまして、広域インフラ、エネルギー政策、特区、首都機能バックアップ、関西ブランド、この5つの事務を主なものとして広域計画に記載することを提案させていただいてますが、これにつきましては、まだ現在、それぞれの検討会で調整中であるとか、中身についてはまだ固まったものではございませんので、まだもう少し議論をいたしまして、中間案というものにしていきたいと思っております。ですので、ちょっと具体的に書けていないところもございませぬ。

それから同じページの広域連合の今後の展開の事務の順次拡充のところでございます。次期の広域計画をつくることを前提に、この1年半で、連合議会、連合協議会、経済界の

皆様から、広域連合に対する期待を含め、意見をたくさんいただきました。それら、まだ議論の俎上にのってないもの、これがほとんどなんですけども、今後広域連合として取り組んでいくか、取り組まないかの結論も含めまして、少なくとも次の3年間で、検討するテーブルに乗せる意味で項目を例示をしています。これはあくまで例示という形になっております。

最後の7ページを見ていただきたいと思います。

国の事務権限の移譲ということで、設立3か年の総括と今後の取り組み方針の説明をさせていただきますが、基本的にやはり地方分権を引き続き政府に対して強く主張していきたいと思っております。国出先機関の地方移管、これはもう確実に進めていくよう、引き続き努力をし、受け皿になるように求めています。具体的には、近畿圏の広域地方計画の策定権限の移譲等、こういったものを求めていますというふうに考えております。

それから、次の3の広域連合のあり方でございます。

広域連合、今まで7分野の広域事務を中心に組み立ててまいりましたが、構成府県市民に対する情報発信、構成府県市町村との意思疎通という点で、連合議会はじめいろいろ指摘をいただいたところでございます。そのため新たに広域連合のあり方というのを項目として掲げまして、連合議会との連携はもとより市町村との連携、場合によっては、住民の皆様の意見を吸い上げること、こういったことに重点をおきまして、市町村とは定期的な意見交換をしっかりとやっていくということなどをここに書いております。また、官民の連携による推進、広域連合の将来像としてガバナンスの強化、現在検討しております道州制を含めた広域行政システムのあり方につきましても、広域連合みずからが評価・検討していくということを書き込んでおります。

それから、第7、計画の推進でございますが、これにつきましては、政策の推進及び点検について、必要に応じた見直しや点検を行っていきたくと考えております。今度は骨子案ということで、それぞれ内容は項目ごとに箇条書程度でございますけども、中間案までには、これをさらに文章化をいたしまして、詳細に記載いたしまして、また、ご説明をさせていただきますと思います。

私から、説明は以上でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○委員長（吉田清一） それでは、ただいまの説明に対しまして、意見、質問等がございましたら発言願います。

○委員長（吉田清一） 上島委員。

○上島一彦委員 大阪の上島ですが、ちょっと前回も申し上げた点で、宿題にもなっているんですがね。1ページに書いてある、国出先の丸ごと移管ですね。これ政権交代後、速やかにやれというふうなことを広域連合として国に要望しているものの、構成7府県、4政令市において、国要望がどうなっているか。私見たところ、兵庫県はこれ明確に書いておられるけど、書いていないところもたくさんあると思う。そこの実態についてお知らせいただけますか。前回調べてもらっているはずなんですけど。

○委員長（吉田清一） 中谷課長。

○本部事務局国出先機関担当課長（中谷文彦） ちょっと手元に今資料ございませんけれども、先生ご指摘の後実態を調べておりまして、予算要望の機会に、特に項目として上げてらっしゃらないところもございました。後ほどまた、実態がどうであったかというの

はお話したいと思いますけれども、ただ分権改革を進めようということは皆様同じ姿勢かと思しますので、そういった中では、当然出先機関改革を進めるという姿勢では同じものというふうに認識をしております。

○委員長（吉田清一） 上島委員。

○上島一彦委員 みずからの反省も含めて、今資料持ってないと言いますが、例えば、大阪市、これ明記してないんですね。兵庫県はきっちり明記してました。だからこういうふうに構成府県の、あるいは構成政令市で差が出てしまうというのは、広域連合委員会とそれぞれの構成府県、政令市の中での連携がやっぱり不十分であるということですね。この7ページに書かれているのは、より具体的に、次期近畿圏広域地方計画の策定権限を広域連合へ移譲せよとか、地方ブロックの社会資本重点整備方針の策定事務を移譲せよと、非常に具体的に書かれているわけなんですけど、これも、やっぱりこの広域連合委員会の広域計画として上げるだけではなくて、各府県の、あるいは政令市との連携もきっちりやって、政府要望に上がってないのはおかしいですよ。それはもうみずからの反省も含めて、今後徹底すべきだと思いますので、いかがですか。

○委員長（吉田清一） 中谷課長。

○本部事務局国出先機関担当課長（中谷文彦） ご指摘のとおりかと思しますので、各構成団体と広域連合委員会の対応で、そごがないように歩調を整えてやっていきたいというふうに考えております。

○委員長（吉田清一） 山口委員。

○山口 亨委員 まず、1ページでございますけど、それに関連しますけども、道州制の問題について、まだ複雑でございますけど、自民党がトーンダウンして、私、自民党員でございますけども、かなり問題があるようでございますけど。真ん中辺に、国の出先機関の移譲についてという中で、政府与党が今主張する道州制においてもということでしょう。道州制を認めておるような表現の仕方と、それから、さらに7ページにも、道州制の検討が進まない限りとか、それから政府与党が主張する道州制とか、4番目に、広域連合の将来像についてですが、道州制が前提としてあるような文言ととれるような表現がしてあると思っておりますけども、この道州制の議論については、もう少し慎重にやらなきゃならん。地方もそうですけども、この文言はどうでしょうね、この書き方は。

○委員長（吉田清一） 中谷課長。

○本部事務局国出先機関担当課長（中谷文彦） こういった文言でございますけれども、特に道州制の導入を当たり前のことということで前提としているわけではございません。文言確かに誤解がされるような表記になっているかもわかりませんが、書きぶりそのものは、政権交代があった後、広域連合委員会として分権改革をどう進めていくか、あるいは道州制に対してどう対応していくかという申し合わせをされたときに、こういう文言を使われてますので、特に道州制の推進を前提としたわけではないということをご理解をいただきたいと思っております。ただ、出先の改革で、道州制において当然となる云々という表記でございますけれども、これは自民党さんなり公明党さん、与党が道州制の導入ということを将来見据えていらっしゃるのであれば、当然今の時点で、出先機関の改革を進めなくてはいけない。将来出先機関は廃止するというので、道州制を議論されているのであれば、今取り組みを進めてくださいという趣旨で、こういう表記をとられたということで考えて

おります。

○委員長（吉田清一） 山口委員。

○山口 亨委員 理解をせんわけじゃございませんけども、ここの皆さんの合意といたしますか、委員の方はそう思っておられるか知りませんが、この表現というのは、なかなか、この連合のここの今委員会の中で、委員会もそうでしょうけども、今総務委員会で、ちょっとこの表現の仕方を考えられたほうがいいんじゃないかと、こう思いますけども、皆さん諮っていただいて。恐らく道州制の問題については、もっと議論をして私ども対応すべき問題と、こう思っておりますけども。

○委員長（吉田清一） 中塚局長。

○本部事務局長（中塚則男） 関西広域連合として、道州制に対してどのような態度で臨んでいくのかと、あるいは、国において道州制の議論が今後進む際に、連合としてどのような意見を表明していくべきなのかという問題意識を持ちまして、今年の2月から関西広域連合として、道州制のあり方研究会を設置いたしました。その中で、先日も中間報告発表いたしましたし、その間、連合委員会においても有識者と意見交換、そして議会のほうでも意見交換させていただきました。そういうことで、年明けぐらいまでには、議会、委員会、当局も含めた、関西広域連合としての道州制に対するスタンスというものを明確にしていきたい、その作業をしております。この本計画、広域計画もちょうどそれと同じスケジュールで作業しておりますので、その道州制のあり方研究会の成果をこの文言の中にきっちりと、文章の中にはきっちりと生かしていくというふうに、最終的に文言調整をさせていただきたいと思っております。

○委員長（吉田清一） 山口委員。

○山口 亨委員 ご意見、ちょっと皆さんの意見を聞いてみたいのですが、委員会として結論出せれば結構ですけども。今、私ども道州制の問題の絡みで、参議院の選挙させていただきましたけども、多くの方が道州制に対してはネガティブ、表現そのものもトーンダウンしたような形で進んでおりますので、委員会で諮って決められてということなら意見しませんけども、今の段階では、余り私は感心しないと。

○委員長（吉田清一） 中塚局長。

○本部事務局長（中塚則男） ちょっと私の説明が不足したかと思っておりますけども、今、委員会なり、道州制のあり方研究会で議論してまますのは、道州制をどのように進めていくのかというようなことを議論しているのでは全くなくて、道州制を議論するのであれば、最低限この点を抑えねばならない。あるいは、場合によってはこういう道州制の議論であれば反対をする。そういうふうな議論を今進めておりますのが1点と、もう1つは、委員会、知事、市長の委員会だけで決めようとしているのではなくて、連合としてそれを決めていこうとしておりますので、当然議会とも議論させていただきながら、最終的にまとめていこうとしています。今現在のこの文言につきましても、連合として、そういう、まさに山口委員おっしゃったような誤解を与えないように、それなりの工夫をしたつもりではあるんですけども、もし、そういうふうに読めるということであれば、今申し上げました研究のプロセスを経て、最終的な文言の中では、きっちりと誤解のないような表現をさせていただきたいと考えています。

○委員長（吉田清一） この道州制については、今、研究の半ばでございますし、局長

の説明がございましたように、広域計画と同時ぐらいにそこそこまとめが出てくるということでございますので、そのときに議会も含めて大いに議論をしたらどうかなというふうに思っています。

○委員長（吉田清一） 前島委員。

○前島浩一委員 神戸の前島ですが、2つほどお尋ねをしたいと思います。

まず、1点目は、広域連合で進められている企画調整及び地域の振興計画の策定等々の課題でございますけれど、これは骨子案の1ページにも、広域課題の積極的な対応ということで、関西広域連合は、今後も関西全体の政策の企画調整や連絡調整事務に積極的に対応していくと、こういうスタンスで表現されておられるわけでありまして。ただ、我々は少なくとも、これを見ると、新たな分野について、これ何らかの形で記載していこうという思いが十分うかがえると、こういう印象を持つわけでありまして、それを控えると、既存7分野と同等の事務レベルまで具体的に表現されていないということではないかなと、今のところは。今のところは、これ先ほどもご説明ありましたが、具体性には欠けるなということも前提でご説明があったというふうに思うんですよ。それから言いますと、この7分野と比較して、同じような形で、これを広域計画に記載してしまうということについては、今後の取り組みなりでいろいろ行動計画に拘束されてくるケースがあるんじゃないかなと、こういう危惧を持つわけでありまして、この点についてはどうお考えかを、まず1点お伺いしたいと思います。

○委員長（吉田清一） 立石課長。

○本部事務局計画課長（立石和史） ただいまのご質問に対してご答弁申し上げます。

広域連合の処理事務につきましては、規約の第4条第1項第1号から9号までございまして、連合の処理事務という意味においては、企画調整事務も処理事務になっておりまして、企画調整事務ということに関しましては、規約上も広域計画に書き込むことになっております。現行計画においては具体的な取組がありませんでしたので、企画調整事務として取り組むという表現だけを書かせていただいております。今回、次の計画をつくるに当たりまして、ここの分野につきましては、この2年8か月の間に企画調整事務としてさまざまな取組を進め、一定の実績も上がってきている中で、組織なんかもつくって対応しているものについては、住民の方々にも、関西広域連合は、こういったことを取り組んでいくんだというようなことを明示して、説明責任を果たしていくという観点からも、広域計画に盛り込んで進めていきたいというふうに考えております。

○委員長（吉田清一） 前島委員。

○前島浩一委員 要は、7分野と同等のレベルで扱うことがどうなのかということをお願いしているわけです。要は、その気持ちはわかるわけです。ただ、7分野についてだって、住民に向けて、しっかりと一つ一つ徹底を図り、なおかつ、それが住民福祉につながっていくと、あるいは行政の効率化につながっていくと、こういうことである部分もまだまだ十分徹底されてない部分もあるわけです。そういう中で、記載されているからといって7分野以外のいわゆる企画調整事務について、具体性がまだまだ乏しい段階で同等に扱って取り組んでいくという気持ちはわからんではないけれど、やっぱりそれについては、しっかりと組織的な対応も含めてやっていくべきではないかなと、こういうことを申し上げているわけでありまして、その辺についてもう少し突っ込んで、具体性も含めて答えてい

ただきたいと思うんですけども。

○委員長（吉田清一） 中塚局長。

○本部事務局長（中塚則男） 企画調整事務ということの中で、この過去3年間にわたって、いろいろ政策調整をやってまいりましたけれども、その中でも、広域的なインフラのあり方の検討、それから中長期的なエネルギー政策の検討、そして関経連なんかと一緒に組織をつくりました関西の特区の推進。これらはいずれも一定の年限、これから先、数年間にわたって関西全体の政策を調整していくというふうな思いで仕事をしておりますし、そのための組織もそれぞれ内部的ではありますけれど、つくらせていただきました。今回、計画の中で明記して、説明責任を果たしていきたいと、今担当課長申しましたのは、少なくともその3つぐらいの事業については、まだ7分野の域にまでまだ達していないのは事実なんですけども、ある程度の長丁場にわたって調整をしていくということですので、最低限その項目と、当面、少なくともこの3年間でどういうことをやりたい、やろうとしているのかということの骨子ぐらいは明示した上で計画として世に問うていくというのが必要なのではないかなという思いでつくりました。今のご質問に対して言いますと、7分野に匹敵するようなものとして位置づけて、それぐらいの格上げをしてやっていこうというつもりでは全くなくて、あくまで、少なくとも3年間は今後もやっていく、企画調整の中でやっていくつもりでありますので、これについては議会のほうにも、広域連合議会の議決をいただきますから、議決いただいて、対住民にも明らかにしてやっていきたいと、こういう思いでやっております。それ以外の企画調整事務というのは、あくまでこれは企画調整、もともと企画調整ですので、具体的な事業には必ずしもなりません。具体的な事業をやるときには、もう必要があれば、必ず規約を改正して、規約の中に書いた上でやっていかないとならないというのは大原則ですので、その域にまで達すれば、それはまた別の次元の話になっていくかなというふうに思っています。

○委員長（吉田清一） 前島委員。

○前島浩一委員 今、局長おっしゃいましたが、基本的に、私も前に本会議でもご質問申し上げて、それなりにご回答はいただいておりますけれど、今言いましたように、広域インフラだとかエネルギー政策だとか特区だとか、ある程度煮詰まってきた方向について、これからさらに進めようと、こういうことのお話ですから、それをやるなということとは申し上げているわけではないんです。ただ、やっぱりそれもまず7分野をしっかりとやってくださいよという中で、そういった取り組みもあわせて一つ一つ住民の理解も得ながら進めていくということが、もちろん議会の理解を得て進めていただくということが重要だということを申し上げておりますので、十分その辺の趣旨ご理解をいただきたいというふうに思います。

それからもう1点ですが、これは7ページにも載っておりますが、国の事務権限の移譲、先ほど来道州制の議論がありました。別の観点からお尋ねしますと、7ページには、一部具体性を表現したような内容も見えますけれど、私は基本的には、関西広域連合の設立趣旨に鑑みると、具体性がこの内容では乏しいのではないかなと。例えば、最終的には、丸ごと移管を求めていくとしても、まず、例えば、近畿経済産業局、近畿地方整備局、近畿地方環境事務所の3機関の移管をまず優先していただいて、次いで、近畿農政局や近畿運輸局の移管を求める。あるいはまた、九州知事会など他の地域と協議して国に働きかけ

ていくといった検討は、これまでも進められてきたというふうに理解をしておるんですけど、そのような具体的な工程や方策をこの中に盛り込むべきではないかなと、このように思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（吉田清一） 中谷課長。

○本部事務局国出先機関担当課長（中谷文彦） 当然我々がかねて求めてきました丸ごと移管、その白旗を上げて、もう降参したということでは当然ございません。我々も蓄積、あるいは議論を当然踏まえてこうこう要求をしてまいりたいと思いますけれども、逆に、じゃあ例えば経済産業局以外の権限事務等について受けないかという、そうではなくて、個別に、現政権でも国から地方への権限移譲、検討が進められておりますけれども、その中で、我々を受け皿として使っていただいたほうがより効果的・効率的なものがあるということであれば、それを個々取りにいくということも含めて検討してまいりたいと思いますので、広域計画、記載するときは、委員のただいまのご指摘も踏まえて、もう少し記述を膨らませていきたいというふうに思います。

○委員長（吉田清一） 前島委員。

○前島浩一委員 ということは、私の意見も踏まえてということですから、先ほども申し上げましたけれども、こういった順番で機関の移管を進めていくとか、あるいは九州知事会や他の地域と協働して国に働きかけていくというようなことは、今後もしっかりとやるということで理解をしておいていいのですか。

○委員長（吉田清一） 中塚局長。

○本部事務局長（中塚則男） 今、前島委員のおっしゃった方向の文言を作成するという、そういう前提で議論していきたいと思います。

○委員長（吉田清一） ほかがございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（吉田清一） ないようでございますので、この件に関しては以上で終わりたいと思います。

次に、平成24年度決算見込みについて、説明を聴取した後、質疑を行います。

それでは本部事務局から説明願います。

○委員長（吉田清一） 村上次長。

○本部事務局次長兼総務課長（村上元伸） それでは、私のほうから、資料3に基づきまして、平成24年度決算見込みをご説明させていただきます。

資料3をお願いいたします。

左上、24年度決算見込みと書いてありますが、左上に歳入決算、歳出決算それぞれ掲げております。歳入6億6,146万3,000円、歳出6億5,685万4,600円、差し引き460万8,000円でございます。その剰余金460万円の内訳でございますが、下の段、総務費といたしまして、一番左から2つ目の欄、147万円の剰余でございます。事業費につきましては、合計313万8,000円の剰余金が出ております。その主なものは、ドクターヘリの119万3,000円でございます。合わせまして460万8,000円でございますが、この分につきましては、25年度の各府県からの分担金で差し引きさせていただくこととしております。

1枚目をおめくりいただきまして、平成24年度一般会計歳入歳出決算書の書式で掲げております。一番下の段、歳入合計でございますが、予算現額6億9,786万3,000円、うち調

定額と収入済額同額の6億6,146万3,562円でございます。予算現額と収入額の比較、3,600万円余りの差が出ております。

次、1枚おめくりいただきまして、歳出でございます。中ほど、支出、予算現額、一番最下段、歳出合計6億9,786万3,000円、支出済額6億5,685万4,604円で、その残額、先ほど申し上げました、460万8,958円が剰余金として出ております。この取り扱いにつきましては、また次の25年度補正の中でご説明させていただきます。24年度の決算見込みについては以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（吉田清一） それでは、ただいまの説明につきまして、意見、質問等がございましたら、ご発言願いたいと思います。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（吉田清一） それでは、ないようでございますので、本決算については8月定例会で議案が上程されます。本委員会が付託を受け、閉会中に審査を行ってまいりたいというふうに思っております。

次に、平成25年度補正予算案について説明を聴取した後、質疑を行います。

○委員長（吉田清一） 村上次長。

○本部事務局次長兼総務課長（村上元伸） それでは、資料4に基づきまして、ご説明いたします。

平成25年度8月補正予算要求の説明をいたします。

歳出の要求でございますが、上から、議会費につきまして、議員定数の見直し、現在、規約改正手続中でございますが、29名から36名に増員することに伴いまして、議員報酬、旅費の増を見込んでおります。総務費につきましては、地方財政法上の必要がございますので、前年度繰越金、先ほど申しました460万8,000円の2分の1、230万4,000円を財政調整基金に繰り入れするためのものがございます。事業費の中で、文化推進費につきまして、国庫補助採択に伴う事業費の増600万円を計上しております。合わせまして899万4,000円の増額補正を要求しようとするものがございます。そのうち、文化推進費でございますが、資料4-1、一番後ろの紙につけておりますけれども、関西文化の魅力発信事業といたしまして、文化庁の平成25年度文化芸術振興費補助金に応募しておりましたところ、このたび事業が採択されましたので、これを計上するものがございます。人形浄瑠璃をテーマにしました、文化の道事業等の推進や、関西の総合的な芸術文化情報発信などを充実するというので、現計400万円計上してありますが、それに加えて、新たに600万円を補正しようとするものがございます。これらに伴いまして、歳入につきましてでございますけれども、資料お戻りいただきまして、負担金につきましては、前年度からの繰越金を財源負担することに伴う負担金の減額といたしまして391万8,000円、国庫補助金につきましては、歳出の見合いの国庫収入としまして600万円の増額、また、24年度からの繰越金として、先ほど言いました460万8,000円、繰入金につきましては、財政調整基金に一旦積み立てましたものを再度一般財源に歳入いたしますので、歳出の繰入金として同額の230万4,000円を計上しております。合わせまして899万4,000円の歳入の増額となります。歳入につきましては、それぞれ各府県の負担金が減額となりますので、次のページをご覧いただきたいと思えます。横長の資料でございますけれども、3、要補正額といたしまして掲げております。歳出でございますが、国庫補助金等以外の負担金の対象となる歳出としましては、説明しまし

た議会費、議員定数の増等に伴うもので、69万円だけとなります。次に、(2)で、国庫補助金以外の一般財源の歳入としましては、平成24年度からの繰越金でございまして、これが460万8,000円でございます。この差し引きで391万8,000円が負担金から減額されることとなりまして、各府県市の負担金は、それぞれ負担ルールに基づく案分をしましたところ、それぞれ下から2段目の三角印で掲げているとおりのそれぞれの減額ということになります。そして、同表の最下段が各府県の8月補正後の額ということになります。

25年度補正予算案の概要につきましては以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（吉田清一）　ただいまの説明に対しまして、意見、質問ありましたら、どうぞ、ご発言願います。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（吉田清一）　ないようでございますので、以上で、総務常任委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後2時35分閉会

関西広域連合議会委員会条例（平成23年関西広
域連合条例第14号）第28条第1項の規定により、
ここに署名する。

平成25年8月

総務常任委員会委員長 吉田清一